

# オープン以来 市内外からたくさんの方が 訪れ、楽しんでいきます



狭山市ふれあい健康センター・サピオ稲荷山  
(稲荷山1-12-3、☎53-0577)

## REPORTER'S EYE



【リポーター】  
福田京子さん (狭山在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

皆さん、2月1日にオープンしたサピオ稲荷山、もうご利用になりましたか。プールとお風呂が楽しめる。と聞けば、誰もが一度は利用してみたいと思うのではないのでしょうか。今回はそんな新しい施設、狭山市ふれあい健康センターをご紹介します。サピオ稲荷山は市民の健康づくりとふれあいの場として設立されたもので、高齢化社会に対応するための在宅介護支援を目的としたデイサービス事業や、保健センター主催事業の機能回復訓練などにも利用されています。そして隣接する第二環境センターのごみ焼却熱を利用した温泉水プール、お風呂などは子どもから高齢者まで、安心してくつろげる憩いの場ともなっています。

私がまず素晴らしいと感じたのは稲荷山公園駅から徒歩30秒程の場所にあることです。駐車場もあり、狭山市外のかたが利用するのも便利です。特に狭山市とタイアッププランを結んでいる所沢、飯能、入間市のかたは狭山市民と同じ条件で利用できます。そして高齢者や障害者のかたも利用しやすいように、スロープや手すり、点字ブロックなどが完備され、聴覚障害のあるかたのために放送だけでなく、モニターを通して目で見ることのできる緊急誘導システムなどもあります。受け付けは午後8時30分までなので、勤め帰りの利用も可能です。また、健康づくりのための施設ということで、足の裏を刺激しながら歩く遊歩道などもあり、特にトレーニングルームの利用率は非常に高いとのことでした。入り口ではプールやトレーニングルーム、浴室などの現在の利用人数が表示されるので、入場前に混み具合もわかります。なお、安全のため定数まで入場者がある場合は多少お待ちいただくこともあるとのことでした。特に土、日曜日の午後はかなり混雑するので、できれば空いている時間帯を利用していただく、ゆつくりとリラクセスして時間が過ごせることのお話でした。



私が見る素晴らしいと感じたのは稲荷山公園駅から徒歩30秒程の場所にあることです。駐車場もあり、狭山市外のかたが利用するのも便利です。

それから、モラルを守って利用していただくことが施設をより快適にし、大勢の人に利用していただけることにもつながるというお話もありました。私も、例えば高齢者のかたなどがゆつくりくつろいで入浴しているリラクスパールで、子どもさんもお湯のかけ合いなどをしていたら、周囲の大人が注意し、はしゃぎたい子には子ども用プールを利用してもらえらると思います。また、大広間では空くまで順番を待っている人も大勢いるそうなので、混んでいるときはできるだけ席をつめるなど、誰もが同じように気持ちよく過ごせるよう、モラルや規則を守り、みんなが気持ちよく利用できる施設だと思います。これからの、ストレス解消や健康づくりにも最適な施設として、市民皆さんのふれあいの場として、サピオ稲荷山がますます快適な施設になると思います。



▲「浴室、大広間、リラクスパールは3階になっております。」

# 何でも話せる家庭であれば まっすぐ生き生きとした 子どもが育つと思います

## 仲川 恭平さん (狭山地区保護司会会長)



「指導が思うようにならず、『私のやり方が間違っていたのだろうか。』と考えることもあります。でもそういうときは、『人間はみな同じ。とがめることもない。大丈夫。』と思い直し、新たな気持ちで接するようにしています。」

おいしいお茶を「どうぞ。」と注ぎながら、仲川さんは思い出すように話を始めます。「保護司になったのは22年前です。初めは私に務まるだろうかと心配でした。」と当時を振り返り、「しかし続けていくうちに徐々に分かってきたのです。親にも話せないようなことを、素直に話してくれた人もいました。そうすると本当にうれしい。私はいつも、担当の人と会うときに心が和らぐような、何でも言える雰囲気にしていきます。するとお互いの関係が段々とよくなるのです。」と穏やかな口調が続きます。「長い間対象者がいない時期はなかったです。だから対象者がいないという状況になったら、本当に平和な世の中になったんだな、と思います。」とおっしゃいます。そして、「最近、凶悪な事件が大きく取り上げられているので、特に中学生はそういう日

でも見られがちですが、みんな善良な子どもなんです。でも何かあるとそれが目立つから、全体が見られてしまうのですね。」とも話してくれました。そんな状況下、昨年は駅前キャンペーンに学校、PTA、生徒も参加し大規模な活動に広がるなど、犯罪防止への地域の意識は高まりつつあります。仲川さんは、「こういった意識の変化を本當にうれしく思う一方で、これからも、若い世代を巻き込んでの街頭活動など、幅広く市民に呼びかけていきたいとのことでした。『今の子どもたちに必要なのは、両親や友人に話ができることだと思っています。忙しくても出来る限り話を聞いてあげること、そして親や友だちいろいろな話ができる子どもに育てること、これが大切ですね。環境を整えてあげれば子どもたちは口を開くと思います。』とおっしゃいます。そして、「保護司でいるためにはいろいろな条件があります。その一つである健康をこの歳まで保てたことが、私はとてもうれしいです。」とも。その口調と笑顔が長年の活躍をうなずかせ、春のひだまりのように温かい雰囲気が印象的でした。



でも見られがちですが、みんな善良な子どもなんです。でも何かあるとそれが目立つから、全体が見られてしまうのですね。」

## 私の趣味



長沢定一さん(加津川)の作品を手入れの行き届いた盆栽の前でご自慢の作品を手にとり。

私は今、週4回のグランドゴルフで大勢の仲間たちと楽しんでいます。また、趣味の陶芸、絵画、盆栽などに毎日忙しく過ごしていますが、何となくも精を出しているのは陶芸ですね。窯出しのときのあのドキドキした気持ちは何とも言えません。作品はどれも思い入れがあるので、大切な人に贈り物としてさしあげています。とても喜んでくれますよ。それが生きがいにもなりますね。それから、家内は使わなくなった帯や着物をリフォームし、小袋や花瓶敷、ランチョマットなどを作り、これもプレゼントとして大変喜ばれています。そのほか趣味として華道、文芸サークルでは随筆などを楽しんでいます。私たちの健康の秘訣は二人で毎日やっているウォーキングですね。おかげでゴルフに行ってもあまり疲れを感じません。今は毎日が本當に楽しく、幸せです。これからも夫婦二人でいたわり合い、お互い毎日忙しい位にたくさん趣味を持って暮らしていきたいですね。